

「事業名：福島県浪江町における農業“新興”に向けた取り組み」 2019年度補助事業の実績・成果

東京農業大学 連携市町村：福島県浪江町

連携市町村との協定締結日：2019年1月31日 現地拠点：双葉郡浪江町役場庁舎(3階農林水産課内)

事業のポイント

- 浪江町の農業復興のボトルネックとなっている“ソフト面”を支援するため、東京農業大学の“復興知”を結集し、①就農拡大への取組、②6次産業化推進の取組、③スマート農業推進の取組に資する各種事業を通じて、学生を中心とした現地での活動を展開させ、(株)舞台ファームとも連携しながら「産官学一体」となって農業再生のソリューションの提案を実施する。

今年度の活動実績

- ①浪江町における地元行政・農業者との意見交換会の実施(2019年7月30日)
農業“新興”のキーパーソンとなる農業者や行政との意見交換を行うことにより、現場ニーズに適合した事業実施につなげることができた。
- ②浪江町での就農拡大、6次産業化、スマート農業を推進するための各種プロジェクトの実施(2019年5月～2020年1月)
学生を中心に、新規作物として有望なペピーノの試験栽培、付加価値を高められるエゴマ、花卉の作業支援、農業の担い手育成に向けたヒアリング調査、ドローン講習会等の活動を現地で行うことにより、農業者との関係を強化できた。
- ③浪江町での農業セミナー、シンポジウムによる情報提供、活動成果の還元(2019年9月～12月)
新規の土地利用型作物として有望な小麦の講習会、スマート農業を実践するドローン講習会、6次産業化の講習会によって東京農業大学の研究成果を提供し、「活動報告書」や「6次産業化テキスト」の作成により活動成果を還元した。
- ④シンポジウム「福島県沿岸地域の農業再生と広域連携の課題」を実施(2020年1月25日)
農学系大学における被災地での取組や担い手育成に向けた基調講演によって取組と課題を共有すると共に、浪江町の農業の担い手確保に向けた取り組みを大学生などに向けて発信することができた。



今年度の成果

- ①浪江町での各種プロジェクトを通じた学生による農業支援活動による成果
ペピーノ、エゴマ、花卉といった品目別の農業支援活動や農業の担い手育成に向けたヒアリング調査など、延べ205名の学生が現地での活動を行うことにより、課題解決の方向性が明らかになった。
- ②ペピーノをはじめとする新規作物の試験栽培の本格化と加工品開発に向けた提案
ペピーノの試験栽培と共に学生のアイデアによる調理品・加工品の試食会を行い、新たな特産品としての可能性を高めることができ、浪江町に建設予定の「道の駅」(2020年7月開業予定)のお土産開発としても展開する。
- ③浪江町における営農再開における進展と6次産業化の推進に向けた成果
シンポジウム等により町民・農業者からニーズの高い集落営農組織や法人化に関する情報提供と、地域活性化に向けて「6次産業化テキスト」を作成するなど、農業“新興”に向け着実に成果を還元することができた。

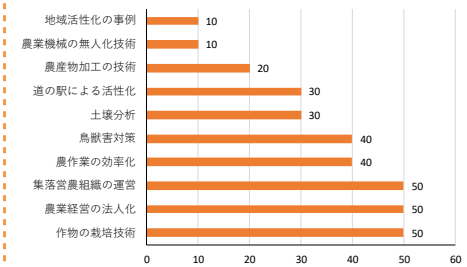


図1 参加を希望する講演会、農業セミナーのテーマ(複数回答)
資料：2019年12月14日・15日に実施した町民アンケートより作成。